

# ユネスコスクールプロジェクト

## 【目指す子どもの姿】

- ・具体的な活動や体験を通して、自分と身近な人々、社会及び自然とのかかわりやつながりに気づき、環境問題や自己の生き方について自分の考えをもつことができる。

<花や緑に親しむ子>

<人や自然と主体的にかかわり学んだことを生かそうとする子>



町内ごとの花樽管理

## 【花育・花いっぱいプロジェクト】

平成24年度は「①総合学習・生活科における花育」「②前庭及び花樽を活用した花いっぱいプロジェクト」「③児童会主催のエコスクール活動」を3本柱とし、花や緑、人とのかかわりやつながりを重視した環境教育を行った。

<各学年の花育>

1年生	アサガオアーチ サツマイモを使った収穫祭
2年生	保護者と一緒に大根パーティー
3年生	「園児と交流しよう」 地域住民や園児と一緒にプランター作り
4年生	「地域の人と花を育てよう」 前庭カンナ栽培とリーフレット作り
5年生	「グリーンカーテンに挑戦しよう」 温度差調査と環境啓発運動
6年生	「感謝の気持ちを伝えよう」 卒業に向けて一人一鉢運動

<花いっぱいプロジェクトの流れ>

1学期	花いっぱいPJ①② 愛育会環境整備（花壇作り） 花樽コンテスト 町内ごとの水やり 花がら摘み
2学期	花いっぱいPJ③④ 花樽コンテスト 町内ごとの水やり 花がら摘み 夏季休業中及び土日の水やり（学校職員・愛育会教育環境部）
8月上旬	「見附市花いっぱいコンテスト」へ参加

## 【成果と課題】

◎児童アンケート「花や緑を育てることが好きですか」の結果、肯定的な評価が1学期は80%、2学期は77.8%となった。「花や緑に親しむ」という目標は達成できたと考える。

○花育指導計画を見直しながら、各学年ごとに総合・生活科における花育の充実を図ることができた。反面、今年度からスタートした花育ということもあり、計画通り進まなかった活動もあったようだ。今年度の活動を踏まえ、来年度はただ花や野菜を育てるだけでなく、ESDの考え方である「花や緑、人とのかかわり」を意識した活動を展開していく必要がある。

○6年生を中心に、町内ごとに花樽管理を行ったことで、日々の水やりや花樽コンテストなど、子どもたちが主体的に活動する姿が多く見られるようになった。土日の水やりに保護者の協力を得られたこともよかった。来年度は、コミュニティスクールを踏まえ、花を通じた保護者や地域との協働について考えていきたい。

○児童会（飼育栽培委員会・ユネスコ委員会・給食委員会・ボランティア委員会）を中心にエコ活動に取り組むことができた。来年度はプールだけでなく、花育にもEM菌を活用し、循環型の栽培活動を目指す。



見附市花いっぱいコンテスト 奨励賞